五元集 拾遺

貞

藤井氏收藏

五元集拾遺

春之部

日の春をさすかゝ霞れ雲
年之如家中の礼を星月夜
松うゝ伊勢ゝ家ゝ人ゝ雖
神明所ゝ在とし毛ゝ
行合ゝ松もうゝうゝかさゝ井
清ゝ川賣ゝ也日ゝ影ゝ流ゝ
霞ゝもあゝ新開ゝ千ゝ年ゝ

元日や月見ぬ人の橋の春
[illegible]
元日は炭うり十の指[illegible]
手ニ握蘭口ニ含鶏舌
[illegible]
[illegible]の野[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
蓬莱の松[illegible]
[illegible]
題黄金
[illegible]一万数を[illegible]代の春
[illegible]のおどり[illegible]
春五正月 [illegible]
[illegible]のむし男[illegible]
[illegible]の[illegible]

初夏や額ゑ中あつ新屋ゑう
世の中乃栄螺も蟇とわけ此去
家文の四判乃東ゑう文子此間

蓬莱の讃

鳴をよ新之の書院此かくば
福禄壽の讃

出ゑ日や年此かゑら乃新法師
宝引の讃

保昌ゑちゑゑ引ゑ胸ふゑ

松ゑゑやまゑ此きゑ南ふまゑ
ゑゑふた若よ屋上の春お浮し
ゑ此ゑか浮ゑ能玄のゑを与

若菜

傘松ゑ作ゑゑひゑゑ菜ゑ
菜作ゑ迫し白魚を吉野川ふ野ゑ乃
作ゑゑ此の七種打ゑ立かゑん
ゑゑを薤書よふ里の朝若菜

大根の画讃

兵乃ひかゑゑ文ゑゑ子此日ゑ

素堂須紙ゟ伊丹帳の三枚目

仲白氏陸月十日田市右衛門ゟ
京ゟ く帳のかきてよかるしとや

梅 押

すき枝れ世ゝとゝなやゝ絵ゝの梅

藤之ゝ以ゝ人子

おゝ〳〵梅おゝ〳〵よかゝふ名

白主改名 調出ゝ

白主の角れ傳子やむめと星

梅ゝ氏ゝ ゝとき 白帳とゝ

仲白氏ゝ ゝとゝて ゝす 惜へ

小袖ゝ世ゝ休白く む免ゝ書

布の梅振い ゝ ゝ ゝ

芭蕉翁百ケ日懐旧

ゝの梅ゝやむしのむし ゝ

詞書略

三日月れ命あやゝ ゝ ゝの梅

詞書有今略

焼のこ形琴ゝ恨の柳ゝ

曲ゝ ゝと曲ゝ ゝ ゝ柳 ゝ

あゝゝんす百孫の掛物自画讃

風なりふきまこと面白き柳かな

山更上京

貫さしてもいつかく軽き柳哉

傾城の讃

きを柳ぬれ額の柿や三ケの月

鶯

鶯の出刀かく結ひけしかな

うぐひすの暁をしまりすま

鶯の初音吹おこせ垂絶

うぐひすや鼠ちり残る国のひま

あるくしに見まく

鶯のこゑ子をもちりりこ方塵

京清水富士をたくかかこ見肥り

枝垂て富を見する雪間哉

すゑ〻ほ〻ほ幾さまれよ雪のあ

去南の京

近藤京 京所ぬれ猫かすひりり揚屋丁

宰弁京 蝶をの涙やまこ弁

幼京 くこの百目あこ子ホ別生ホ

宰寺京 柏木乃柳をとをあり猫

思仲玄
疑玄

飯くへて君の方へと訴松猫
花の夏胡蝶千仞の辰砂
人ふこゝろの影をうけ
年少りゑくさめもあへす咲まゝ
吉京の初年
初年や賽淺よみい芝居
初年ふきの行ゝ此例をうけ
の淳子達ふ祝新いてしは
いの字よりあるやいな山
山の猶丁寧とへす入日ゆ

川邊編(ナラ)ます邪宗とゑ迎ふ
帰る原で茅渡さも赤やかふ
授記品無有魔事
ゝゝしふゝ彼岸の夕日新
不生ふ滅ゝを
海棠の舞を惜まん像
絵ゝゝ此門ゝゝやまの声
世の中長行のゝかき雑子ゝ声
惜春
梅ちるや影を笑ふやん風中

かりうや江戸をとまを出る風巾

支考の幸を延のこゝろざしまことにたふ

白川の関にて見返るいうせうの

白奥震命

月と花表出雪奥北臘国

奥の奥のいとまの川けしき

画賛

南湖のさとりの奥の露北声

引うへて苔をたゝきのふ杉北洵

駒とゝめて立見る俤ふ蕉北だ

すこゝ出羽やはるやはるし

沢庵の脱とおもへとゝ出るさい

遊行すきあるまゝや庵の桃

東潮源字見巳

出羽やへ人金世活を連云う

屋敷入やまいふ活ふ活活

鶏合

炭喰の蒙ふ立ふ祝ふ北洵

免衣行脱ふ名を雪ふう

刻ゝ入るゝゝ死冠を養ふ

老ふ丹ふ
拾ひをひ

汐干

貝ほや白洲の事は流れ松

貝をむき作るを

あさり貝むむしの紙ぬ
磯辺や海松ふよす紙ぬ貝
子安貝工夫の浦を産湯
浪捷ふ引き蠃螺ぬ
魚ふ上げ上げ栗

海松ふ浪の中ふ紙貝
すき貝ふ貝ふ貝ふ濱見し人の
引き潮や見ぬ紙ふ汐干貝

雛

かつらぎの神ふ雛を紙ぬ
いとものもやう
世ふ酒ふ酒ふ人ふ雛
ふ雛ふ雛のすき紙ふ
紙雛のさくらよ三月

元

猿の家ゝ法度をいめて猿ゝ

さゝ物ゝ[illegible]目玉のさゝへたる

口ひゝをと奥ゝ吸ゝ猿ゝ

こゝをゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ猿ゝ

京中へ出るのさゝや[illegible]

猿田の書置

山猿飛を法ゝの様子ゝ

書深ゝ鋼彼さゝ[illegible]ゝ

山猿法ゝ[illegible]き[illegible]ゝ

元

浦人の

敬時を[illegible]ゝ買ゝ猿さゝ

古元の車ゝ猿ゝ[illegible]猿

法ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ奴の眠ゝ画

落ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ物ゝ[illegible]ゝ山ゝ

元ひゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ出元ゝ[illegible]

大佛膝ゝ[illegible]ゝ元ゝ

法坊や[illegible]ゝ[illegible]ゝ

法利[illegible]ゝ[illegible]ゝ元ゝ

庚申の雨とて新しく
計度をくらべさるる哉
續莊子
彼雪の侮辱のうせ
花をもうつすと雨新
かんさしやちるは此もも
哉下けるくやうの事家
神力品 現大神力
法のうちちるやうを世をさくる言
憶芭蕉公羽

月見や浅陽の寺社弥勒
代 蕉
影笛遥義経
風形舟哉見世中おもひ
湖春をいくらく
法てよむ経再をわり哉い爰
名ゑかりや作 哉文帝哉さめ
模 鳥
哉凡や天女頁生て宗法
寒食二句

高人今や富下ふ猫の目を怪しむ
人々棄てる而寒合の乳出自成蓋

画讃

蓋のうらに帰きいて蝙蝠あり
山吹い黄ゆまを玉ちらすさき
きりしまふ豆腐を切て接ぎやな
栄ふ此墨い蓋掛乃ちらあり
あるくの子のをを学て
ことりやや書ひるあり蛾ちゆ
弁ふ蛾の糞ふ一絵ふ

およう弁一のさらこ八布と
何必逃杯走似雲 俳大伯筆
はは吐とふ為て迷ふけふふ
祢ふる蝶あ取る〳〵何をするるを
信ふふうふ姫めなるへしふとる
三月尽
式ふふ高てをををるふ白雲や

芙之 神

寧耳己

白雲もなをうゑ井そうゑもりへ
はるかすしまのトゝやゝ更夜
ぬゝくやゝ冬千ゝ敷音夜うへ

東叡山院

傍正のまゝをひとへゝやゝ機
七日おうゝ浮瀧擬ぬまゝ簾

時雨

おゝくこゝまこゝ二声めゝ冬出馬ゝ
あれまゝりて鶴ゝうゝおゝくこゝ

ゝを身るゝ歩まゝ鬼おゝ子歩

山田市ゝ

ゝゝゝと西まはゝゝや郭公
敷まゝて耳をゝゝて聞ゝまゝ
ゝゝ自ゝゝゝゝゝ我を帰ゝの杜宮
祝ゝゝゝ警祝付ゝる仲の戸ゝ
あゝゝゝと勝まゝゝまゝて行ゝ
ゝゝゝゝ東ゝまゝ夜降のゝゝやゝゝゝ

時ゝゝ行ゝゝ一声を
郭公中入ゝゝのゝゝ秋ゝゝ郭

さもてを未見ぬく引きを安
鬱なるこだの奥をほ出きあれ
外の戸や犬よ〻ゆるを居者を
ほ広まて
ほとゝぎす雲も輪ふある浦まき
鰒
多ゆきあるさ蓋のをとけふ
ゝ祢の地先ふゝさ鰒ふ
素鰒れ卵の中れ先ちふ
人のをとを

人のまふとすりあしを鰒ふ
末ふ賀
名百名海をとまして鰒ふ
丹根尼糸かのとのゝやりを

条宮勤を
異杜丹祢ゝや祢ゝその大名先
むゝ西やゝ藻山を名ふゝふゝ美
須広ゆ山ゝ海ふ海をとん名
嶺を少んて択印の名を潜り
海ゆ糸の義士名をいる也

すもたの清を引こなつかる

伏見はせ細系子

杜々ゝ女やりのさのうゝ一すり

俤城の苔出屋さしやかりの君

けしはこ家朝桂をの凋をとる

新り隆毫風もうのすけ蛙

苔子ゝゝ子ゝ苔ちゝ苔はせ須弥ゝつ

上行寺

灌仏や墓ゝむゝく新独云

紙金紙かろしやゝ世文云仏

岩谷庵亭題送懇

みしの秋や蛙へゝふ蛙の音

鶏頭や朝日ゝりの納屋は声

あるゝへの別雲ゝく

内川や浦れゝ菓ふく樹

柱柱の菓やゝ生角ゝ撃

秋ゝゝ色ゝげゝもにゝ馬麦

馬士新ゝゝゝゝゝゝ麦

麦ふゝ新しゝ庵ふ月をゝ人ゝの秋

能化堂麦清ゝ俤を乗ゝ引

蛍の麦藁よ年を急せてるや

豊年

炮々味噌に手を濯らむ伍蒡子
千仏やおしろいしても言ふき貞

祝産育

たらちねの皮干膝の結つみかり
大町亭法言　洞玄照
清の言兌笥羹皿も加へる家
志ありける清卿の梅干けるを
延

梅いくつ開仲の打婆子むかし

壬二集

さこさ作と七月に貞まへハ
名をとへていふにひすなる
ともかせと

さみだれの名をもへせよ言ひなお
なよ承は米紫のうして紙の皺
かやと言葉をえて
ものゝ始は幟甲や庫のうち
粽らりん騒干しとめて給はかり
幟網沖に合凄つ帆ら作弁

幟之出者の蓋や高杜舟

画讃

[illegible]みやまの芦の紫分鑑

[illegible]

根合や作池[illegible]す菖蒲

興文

けさうんとのめや昔の富田酒

千山亭新宅雪舟の絵よ

隅よ筆を絵[illegible]六月雨

[illegible]

三味線やゝ[illegible]マキ[illegible]六月雨

[illegible]

題江戸八景

[illegible]い浜川の[illegible]雨五月

[illegible]の[illegible]

[illegible]月雨や[illegible]

江の鶴

[illegible]雨の窟[illegible]一曲角[illegible]

[illegible]ふす[illegible]六月雨閣

傾廓

八ゝ高やかなりさまん院の
旅人をあるをとゝ
寒坂や閑の立月はめくる馬

勝誠

籠すゝき鬱井を麦麻の月

自慢

扶ゝるを毋麻ゝ花ゝ
多鶴呼く扶ゝ拙井のつゝめる

和古持

哭ゝを焼てくゝ多鶴を煮ゝ扶ゝ林
くゝれ杜國例ゝ
ゝを紙へゝ少ゝ
むゝて雪ゝ月つけ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

汁の濃
芸艸小膳てゝ

芋川ハ義より仕出す養子なり
宮沢ハ
[illegible]
仲の戸ハ[illegible]ハ蕨ハ[illegible]
臺[illegible]
[illegible]や鞭[illegible]つゝ第根山
田植[illegible]茶屋[illegible]角田川
会[illegible]
[illegible]女のよ[illegible]
[illegible]平苗[illegible]

會盟

[illegible]の[illegible]ハ芋料理
[illegible]ハ蕨ハ小木の[illegible]
竜前載
陣官士[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]て[illegible]載[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
海雲和尚[illegible]や[illegible]の[illegible]養[illegible]角[illegible]

望海觀遊

海松見やゆふ浪の隙洲松

藻貝見ぬ濱辺を

海雲ふくや見る出汐を磯かぜ

止波浦しく

櫂引すて蜑のまかくれ汐

壹浦の橋永押渡て櫂橋の

下を入

帆とゝる鯛のさはぐや蓋浪

舟興

夏草の見ぬ世の光り邪

朝日にてゝ名さや邪

石枕小鮑やあり蜑見屋

岩根こす鯨一鯨あり走鯨

拾女小鮑をかつて漁師に小

藻刈くるやゆふ出かてさくる

藻の花や海老釣す袖小さしぬ

蔭見る臺小ゆ見ぬ涼なる

夏来ぬ小沈上見彼風あす

建長寺無詩俗了人

爰ふ詩をしるふ俗なし芭蕉翁
谷木の思なかるをとゝもし給
年の年九月年の日年乃
附うけふ入る
雞鳥時ふ入る 鶏 ものいさゝ
日徐辞しけるふ迷ちうる
ゆふひうゝ 燒失をかけさる雞
いつの向うなる 明 ひうゝを方九月
雪ふ入る月や志賀うゝ富士の山
芭蕉の月 蛾を 蛾ふしてゝ 五百雨

市北衛屋のつゝさる
当時うゝ芭蕉翁つゝ育れ蛾を
夜漬書
蛾をおのや 枕しゝ 年の 初
中の日うゝ 蛾屋まうゝ
秋早 紙帳ふ風を入る
蛾多名のうゝ 墨ふ
辞て志
育の蛾 枕とゝ 八ゝうゝ
宗長の句をうゝ

橋九一つ二つを敷き渡し
むらし白ふ花さく実さく陳皮さく
敷き渡し又新白 檜を
松賀秋航岩城一錄千 新石千
住もやゆ〳〵分を
敷き渡し大小狭第う 国家小
佛骨表
ちらちら〻〻蠟を打ち韓退之
射者中ノ真者勝ッ
蠟ちよいもとあるる 延ちく浮

住居〻系〻人賜元年新
錢千

柔の蠟を〻〻庫 馬地上
蠟ちくは一系形人文の菊
ちさけて新日小も
蠟点千妹志毛名和 瓜住
母のりやゆ又浜〻ち去桑 瓜
あ〻ようう蜜千 ち〻ち六皮
ち〻りの塩系の〻〻瓜の存
瓜の一元 文を系小略す

此茶小形あやまりて仏掛茶

陸奥川道迄

富士行や細代小火おきの小屋

白雪小雪ちらちらこれやふし　清

ちらちらは又雪ちらちらひふし　日記

彫れのよ新米のもとやとろろ

水雲山里葱は紫白し　日千帖

不奪百姓、膏腴、と文選の詞

百姓は大きなる神や一杯酒

胸農

焼藻の背中小あつし　四季文

和歌買や朝見し家を夕日哉

雲ちらや猫は糸目にあるる雲

蕉より呼くや六月朝ちらす

百姓の家は先より刈むき

白雲をとる蕨て　貫小

三義といひるかるかの清

ち新貸や　俳諧は奇紙方知て

長野門きよりとりて出さる雲

の雲小変わのやしきち丸車の

林のうけ小舟をかくしめるあるとき
ふるいふる者此世をうらてなる
ゆむうち此壺の奥小戸をしるる
あるるか新郎人美し麻蓮
一鼎の香炉
日蓮よ木すぢよ蜂の呼く時を
空蜂小方言ふく所汝邪
木戸窟をあるるむ
蜂を南廿一日呼て教此窟
入湯のく木賀とるるし

蜂の声すらとあつき指小
紙子を懐紙の表帯にして長
小おうもりなる
飯桂ゑ加ゆるゑ蜂の衣
視レバ彼蜂ハ貧者小衣をめるる
祇園敵の加盗法を
杉の実と言ふ世月の蜂小
絣天王法信不
里の子此教まいむ教子
義教 談

傘は様蓮の[illegible]

詞書

秀一 姫蓮子を送る

得正観音像

[illegible]蓮勝手[illegible]白ひし

[illegible]を作へ法[illegible]の[illegible]

つ[illegible]山の文を書

さ[illegible]

[illegible]

[illegible]白蓮社

法[illegible]の[illegible]蓮の姫

蓮の[illegible]赤[illegible]暑[illegible]

[illegible]の[illegible]暑[illegible]へ北

冠里公伺中松山初入の時

川[illegible]浦の[illegible]

小女[illegible]

信九[illegible]時[illegible]

朝比奈の[illegible]入[illegible]暑[illegible]

宗[illegible]

[illegible]

[illegible]

生死松いうこゝろもむ汗拭ひ
死の海を汗のうゝ集や一家中人

山田院亭にて

汗濃さよ衣の背縫北ゆうゝ雪
分おうゝむ一重織も浮世うゝ
何うゝ織綿を主し紬の腰

小所の談

腕うけて休むうゝ人うゝ大うゝと
かゝりのおうゝうゝすおを小
うゝ北松よ風の塔ゆる庵うゝ郎

うゝよゝ風落日おうゝる園庵小

所見

蓋うゝ家うゝ星うゝ川竜北源うゝ郎
谷合のゝ文よ松のすうゝ色てみゝ
風よ家うゝもすゝゝすゝ美
うゝを丸ゝ

丈山の海うゝ重おうゝを源うゝ
夕芝師すうゝ風の松小
源うゝ母原ゆうゝ今一遍う郎

七年を毋ゝ作て死の雪とゝ
のゝさう

此母よ老さらは都しかめさらみ

布袋の讃

寐さうな子とも熱さな夕涼

祇公日次の題をとりわけて

河骨堰堤利をひさけ流哉

芙蓉のすゞしきもとの意を尽て

新今に満よし寐るゝ下すゝ

夕すゞみよくぞ男に生れけり

此句を世の業平の句よ

せり予 晋子の画讃を

申さり

抱籠や妾しえてきぬふりふ

曲水の様を古激水を思ひ出て

漣やおふぎ表を含むしろ

亘よりいくつ

宇ゝ縁や戸ゝ情めぐる麻暖巾

萬籟や曉ことに柄杓水

井ふうけもふ術の母ハおまへ出る

陸やあり

龍あけよ清きを涼す發句哉

露沾公能興行

月みやけて酒のこほるゝ清す思
床の下ふ乏てかはて涼り　涼見っと
あらさふ人と知る人を涼み　待らく
ころ知里八松うけふ下涼やし　家平
判后老色よしいちまて秋のくる庭
とさし　何承
大海ふで一滴ふ江知く氷かな
世ふわり俤て西行の纸ありたおれ　但平
様すむ友よ膾の精　雪　清水
夕こうや清水すりけ辺あくる堂

炎まくて夕より雲のあたまかな
烟雨村
夕こうや清ひ分るゝ古桃色
中まうやきれふの坂とおくる大騒
雨中吟
白あて粉后の紫知後ゑ白息
浅草の京ふ好みて清ふるゝ也
しく露を見るるて
夕こうや長ちいさき帆の京
ゆふ霞やつふ房とかへくし　俣僕師

夕ぐれや家々と見うしなふ峠　嵐鴨

八雲たつ出雲峡（ヤクモタツイズモキョウ）峨峨（ガガ）をこの北岸

根拠のくすぶりやすし雲の子

至相舟

雲ひくく漕金たつる日の影元

くくり舟や　掃部小紋ちらし千

扶美と美ちくあらぶて見ちらす梅

佐の戸むかしき蠣の崖の邨

醉登　二階

酒の瀑布　於爰の九天より爰ら路

紅葉　河やくくて北下のくれ

庵の冨士み

すびつくくすくふ茅の炭　俵

庫家より樹をすくくつのこす冨

先ほをまつるすとしくます

河のくくん六月　桐を植る人

市中の家居いくくふそう

くくれ

敷物さくら大敷や夏神示

清稜

蓑稜山路の雪れ[illegible]

秋の部

井の柳こぼれふを相れ一茎小
[illegible]れ蛾一茎ふちうく[illegible]
蕭山子のもとより　画を探雪
[illegible]と[illegible]と大[illegible]
[illegible]

[illegible]

けしうを相の一茎や年[illegible]
竹[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]より一茎
[illegible]日[illegible]
河[illegible]

[illegible]を[illegible]
父の[illegible]
[illegible]

[illegible]

妙感の[illegible]

秋[illegible]

格枝亭[illegible]

乾兌坎震離艮坤巽

[illegible]秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋夜語[illegible]

[illegible]織や[illegible]の義[illegible]

市隅

西[illegible]

[illegible]

市中の閑居

[illegible]人々[illegible]子

朝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝[illegible]

[illegible]人や賢帽子

すきを置るかけをの後
あさうのや藤ふ生るまし這ある
蕣ーさまふの瓜北二茎
郭点ふいの川右出ー清使
ろんの妻ちの生く恨む槙垣
七夕
星ゑやん北心波瓜さ
妻の後やゆ待ちを宮の星祭
東豊ら母七牛七星の秋万
望の秋北七牛乃桑ら動を

星北夜よ瓜北細ちく夜ちを
三霞の石ーよ横ちんよく
ろる姪ど寄ーのもらを一日
ありて七夕ふ寄をちけをい
中行ちゃ
文月や蕎ちく みゃも母の恩
稗買ら北ひちの川波ゆ天の川
妻星ちよあるー一ちあるゆら
大加北ゆ北明ちいく天北川
明星や額ちを寄ふ蕪ちく

秋七種

久方の星のかゞみにうつる花や女郎花

女郎花への人こゝろして露に

ぬれつゝ綿を七夕比自向草

まゆしくも

露まけりや味噌こししもるかな

海辺暁雲

稲葉や朝瞰しぼる宮に文

藤袴のつまをかゝむしほと

こゝろもしれてゆくの結ひ

葛のうらみ手杓子とりてする気(?)

七月十日此夜七夕の食種に

杓子のうちもかごとよりぞ曲たる

夏よりすりし骸骨なる萩の声

詞書あり黒す

萩もゝみに菩薩をこえし上臺

又ある萩の露におりて逢ふ

たゞ此露拾貝も今ぞりの飛

萩にも荊を西瓜にまけて借す(?)

半ゝかる妬浄蔵まさに女郎花

遍照の讃

倡女よ鶏のかへつる女郎花

舩舞なとも艶迷惑さと

菖の節は布紙をとらえみだれ

髪のちらかる男の推つよさに

みけるなるへし

西瓜吟ふ奴は髪は流れたり

秋風に吹ぞ安達か原なるとや

活徒餞別

よもとむ人の君かちと寄すまさ

かなしとや見ん猿の声未人焉

芭蕉葉は葉に雀も角をかくしけり

されるとよりかけしなむる秋風に

芽をとらへ雨と開風の扉をまた

鑑素堂か秋池に

風秋は荷葉に二扇をたゝるなり

茶冬もては掃除や白芙蓉

盆會

かくしすかりはなき魂の久々帰

はらちら系信今も見ぶなかりけり

右の二句文ありそこに略す

陀羅尼品

涙を罷れ秤や墓まんれ

分部原

みちきやゆ分張ふ乃面る髑髏

文月をとゝ刺鉢を猟領

しら世の人れいひさとすと

鉢れかくても屋乃う大敷を

生霊酒れ下ゝる面新に

ゝれいかゝゝま入ゝゝあしゝふ

前ひゝてゝれ前をつゝふまゝ

切ゝる筆ひを

新ゝ子もさすき ゝや蓮賣

稲作やゝ声のゝりさゝ才子塔

一生屋敷をおろしておゝ

酒ゝゝ変れゝ命小酒ゝゝ

ゝれゝ名も優美なゝ角乃

霊

赤児のけゝさしゝん変まこや

私ゝをまゝれ変や園乃外

ゝ身やひゝゝはけゝき狼の子

子子等小を抱て[illegible]
茶はけ[illegible]き咲[illegible]むる夜や新豆腐

芭蕉庵の秋

[illegible]を秋敵よ[illegible]
[illegible]の町妻[illegible]
[illegible]
二度[illegible]目[illegible]

宮浦の山[illegible]

川霧や[illegible]
[illegible]

寂蓮

[illegible]山の[illegible]
[illegible]
秋の心法師を[illegible]

南紀の其詞[illegible]
因幡玉川[illegible]西行上人の[illegible]井
[illegible]

[illegible]井を[illegible]秋[illegible]雨

七月廿一日工[illegible]三回忌[illegible]
[illegible]墓誌

[illegible]仏殿寺会仏堂

三人の声ふるくよ秋乃寿

宝

[illegible]ひかれむ　さらさ[illegible]

[illegible]を裏の書いすくろん

[illegible]して[illegible]

元禄六酉仲秋　泊川芭蕉庵

[illegible]主の戸よ入て

生[illegible]る西雲さらみ生駒山

一[illegible]の書もるそうむ天[illegible]

[illegible]ふとも[illegible]て[illegible]くの

[illegible]ふ

[illegible]り荷分北文や天[illegible]

[illegible]湯豆腐

[illegible]の湯の戸を開[illegible]豆腐

土[illegible]先祖の功[illegible]

[illegible]を枕席よやすんせす一歩戦

[illegible]のるむ心さしを[illegible]

[illegible]をおろるむ人[illegible]命を

[illegible]北[illegible]ふりけて[illegible]

河のうを踏ーこゑをしるをお
とゝ知りて家招き然
眠をさまさせる
陣中の孤肺もかくやーの声
著れ山をうを庫のうゝ
わほうとい庫も月うゝ明さ
荷の中よりを繰かへ小田の鮎
ゆこたかはうゝ様の声を拍
さらほとか垂をうする能う郎
いとし世柔弱にして小泊て

潮をさうをて為よ外す鯛俗
字なりうゝ例さおもしとい
いうゝ

小いうゝ一日茶子春北門
かのうゝ朝飯白ふ根拍う郎

月

沈うゝ七分にあうゝ青の月
鯛い花色
うゝ月ん丸豆かわて月うゝさ
すうゝのまうゝもあうゝ青

月ふかう如波よ来ぬるこゝ地かな

河出ふ略

名月やたゝ手も兼ふ奉手口

河出略

信濃ふを者光子奉ふ名の月

仲麿の画讃

月うけや手を帆ふすく三笠山

長柄文臺の紙

ちゝ月をむらしの橋れ打月ゝ

月を御覧れふ百姓下女

ゝ月や信長おゝの者と泊父

満百

月の月ふ成りう毎れ新

娘ふゝ九ゝ程を月見ゝ郷

河ゝゝゝ敷ゝちりけふの月

唐子れ片紙ゝ月の雲

嫁くふゝ中出れ月やゝ月祝ゝ

雪と様を画く

中秋の月ふゝ出ふ三日の月

月れゝゝ詩の舟ゝ山ゝ川武ゝ

信と呼して
少使を託て毫月をこそ
聊めやる遥谷やりの浮馬迄
月日は栗栖庵菊うゑ其葉
閑寂雄いる里は松茶より
浮雲林やうの歯ふるめる七朝の表
いう栗は神ぢき様のおもれ計
淀川を舟庵きうて
栗賣の言葉へかる角おりる
癸酉八月五日は盆大葬

送の場しし崩しの哭を懐
て四生の起別をそる
一誠平悼も未ちと敗る邦
明なるこそひしきものを明あた
稔芋子小米を初ふ出うる
稲うるや穀を掬ち芝素の中
松尾の庭よさうゆ土と
塀つゝて屠よ松おとと
北まふとうるすゆよ志めし
初ふけるる

けぶりたてる都の古やあれ子規
松のみそ〻郎と成り榎茸
東国風なる丸山の手成
るつゝ付
冷泉の殊教手法あるる茸
茸 将十唱句

其表 不二班麿茸
〻〻 蕈四交臼杵
其軸 茸蝋燭消幸

石突 角仙屠角帯
つゝミ 笠回菌獨樂
焼松茸 松枝菌返報
挽松茸 不香松雪漬
京ハい行と〻〻 蕈女山雨重
其賞 北嵬小松茸
献上の中〻 祝菅崎生茸

通

鶏の下知つゝり者の廿通

籬ちの中ゆとをかうとし園の菊
ちらせる菊新人ぬ名字をたれかし
柚の名やぬ記とうとう新菊の表

重陽

菊の酒菊酒ぬうふたてみろ
千家の騒人百菊ぬ俳諧
菊うりやうぬよ蒔人の質と賣
きくもみちる金をちけて流るぬ
ぬ八ふよすある筏うむり菊

四反風虎公十三回忌

菊ぬ名やぬ
九月九日庭を拾ひる人よ
きくや名と星ふ輝く礼ぬ
菜花餞別
友盛を菊ぬ使て梅ぬ
子蕪の柚乃望よ白ぬ
十三夜
白露の義ぬ風ぬよ海苔
ぬ菊も加俳をとる新よ
海の月松やきくうぬ江戸ぬ

ほそ子をくふてくやなぎ
植むし此俤を栗よりなくて青小
家こなりけるまこをしたの月

鳥

木兎や百合さくうつりもの
仁合寺の岸山うみや笑ひ花
山うつる此戸よりも宗もあるる柏
寺流よりくく稲負鳥と立つる有
早午うつる小松の中山立中うつ

小雪屋長寿

中村少长去婦連てく上
京中し時
山雪もくくをうつやむ鶯庵
紅葉ばくく山をうくの立中うる
山中をくこうるる面中和もみち

新撰六角港

寺院の立屋のくしめや下紅葉
亀のつまる春やさきゆうて岩小苔
木葉の食蕎を秋乃みさお

芋秋

[illegible]

九月[illegible]

[illegible]

悲園 雅

傾博の小寺にかすかに九月尽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今熊を志ゝて[illegible]

園河の絵

[illegible]

[illegible]

七[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雨痩松 私の初手[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風　文[illegible]

木[illegible]世よ拾[illegible]如[illegible]栗

風と[illegible]如[illegible]年の[illegible]

芭蕉[illegible]

なき[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]いら[illegible]や山の[illegible]

曲[illegible]と幻住庵よりも[illegible]

[illegible]の[illegible]と[illegible]る椎の木を

[illegible]

玄賓を世[illegible]

画[illegible]

松一木[illegible]食の[illegible]

坊主[illegible]

坊主[illegible]

坊主[illegible]兵情小[illegible]坊主[illegible]

朝鮮の書やうらむ笠人参
細代寸大根望をとゝ発りう

寒ひ春迄の詩

福天の京机ゝすりや 仕切帳
子々衣裳新い地紙あり 夷詩
金子のおのもとゝなる雲れ声
清楽城れ火鳴りわゝ雲れの秀
酒ゝゝゝゝゝ剥りう雲れの声

貞徳新宅

吐蕃を清水もきりて板蜜

芝炭刻る火番を斧の出なり
坂火やゝ長ゝけていちり 焼
火鉢のうゝ寒梦ゝ言葉を枕ま
角石の稼ゝて浮世ゝ砂糖
結つゝゝみれ孫宮や納豆汁

立厩

ゝゝ孫の足下をかりんゝとせめ
関守れ紙子もむ失の世ゝ弓
朝嵐馬の目ゝ月頭巾ゝ
ゝゝ一ゝゝ一ゝ種の花れ七日市

宿僧房

おくるる所しる人の形ばかりの葉

永久へ霧をたゞくも柄うの邨

武蔵野や冨士見る数のこけ衣

秋は夜の筆墨ちらす小枝哉

明子ゆる米搗唄の梦覚

有ふるる所ハ立し流の作

人の毒むつ〳〵しゝ

警蓼北ゝ立とちよう寸こゝ

作〳〵と登れ急や冬籠

七夕ゝ忘也や負利ゝさゝるゝかゝ

夜眞

夜眞川 論人犬や芋川ゝ山

犬引ゝ京廣將門より里夜眞

蛙 一主ゝ也ゝ食れ物ゝ鳥

影見世市川之絆を流す

ゝ月ゝ寸ゝ山ゝ冬ゝ氷ゝ冬ゝ氏筋

夜学感

警水の秋や燈燈灯墨ゝ秋ゝ角

出房別仕ゝ主ゝ人のゝ角の

月小酒賣不許入内とな
さわしき
[illegible]家の紙[illegible]
頓むさや[illegible]
町[illegible]
貞徳翁五十年忌元禄十五
年壬午霜月十五日懐旧乃
[illegible]述作
[illegible]橋のむしろ
霜月廿七為侯于黄門光国

鄉之法華亭題周山之遺景
一 ひのもとの法華亭 [illegible]
田の[illegible]山[illegible]
[illegible]破[illegible]法華
二 法華寺高雄
[illegible]橋や[illegible]の[illegible]
六角堂孔子堂小町の塔
[illegible]
三 耕作の法華経

[illegible]屋より茅ぶきの屋
[illegible]大根茎[illegible]
[illegible]根[illegible]
[illegible]より菊やあやめ艸

四 黒木[illegible]屋 [illegible]
[illegible]堂[illegible]樹林[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

我や[illegible]牛より高く[illegible]木茅や

五 茅柵 [illegible]

茅葺や[illegible]より[illegible]不破庇

六 西行堂 [illegible]の[illegible]柳[illegible]
[illegible]より北山より[illegible]
[illegible]茅[illegible]水[illegible]
[illegible]

炭や岩間こがし[illegible]

七 唐橋 [illegible]門を見て出[illegible]を
[illegible]あつて[illegible]
[illegible]

出橋や[illegible]間[illegible]松

八八さしの花ばなを取て
坊を新月ふも所より帰川を
九河原書院さ見て出る後
を作りての賞
八条院御所の跡
十西湖さ見ひいと絵の出来亭
よ入る所松月を楽むてり
美よ毎日の家にて西湖亭
ふと云て来版うしを作て
詩をあるる漁
詩をあるむ雲北松小松

右十幸
系北逝石炭の墨人を尾石多
松風や炉よ冨士を見て西屋形
俺よ絵て一炉の数系乳漆
鱠
妻ならな飯ばしみとお衣
鉄炮のさ絵やかとけ
をを切ていよくおて飯の面
詩人四もも松江北河豚こいな
鮒ふうす鱠ちうん雲の飯

文略す

茶は湯わかすまとゝぬく鍋汁
餐餘をかうまけ足をとる厨(くりや)ふ
ゝ代ゝうやゝひろかれた学鑿

重

ちり重やゝ大の面出す板は垣
勝を捨ふまけふや　重は　積
酒能鍋へ引ゝ茶碗し表の重

文墨す

玉塚のまふとゝとゝと重　女

塚未のゝ
冨士の烟はかひやなりんの
作製をよゝ〻ゝ箭やし
ゝゝゝよ思ひ陸ゝを付ゝへゝゝ
よゝく化を廣およ板ゝ表ゝて
陸ゝのゝゝみゝへゝといひて
風ゝゝわゝふかりゝ也ゝしの重
重は日い声井　賣ゝ行ゝ水ゝ
冨士ゝひす麦田ゝ重の早苗ふ
書陸を重は祓や九合祓

なるゝ愛此詣さそて靈全く靈婚ハ
又例靈子此小使を何奴つて
嫁出して靈ゆら拂ふ柄袋
靈にもし給新の掛菜をみ詠ね
秘密の鶴み帰るを知らしめ
家へ下
墨染そ御手や靈ら例ね
朝あさや月靈帰き酒の味
雪ふ閨へなら乞にも蘇鉄の女哉
秋とし昨夜の菊と麦畑

極寒

さゝめよの遠精も流し寒嵐
手燗継を喜ちてまとと此篠粕
跡なしきの歌
細しまく　暁名の一声ふ
み春ごさらへて　去川ゆつか
花をそしら菓　こよみら此もせ
身ふや飯代　称さもし餅
おもし給や此　極さし米
寐きめして　法科りし畑

世を去りけん　さしの白
氣れふるなる　くもりかなる
七十古来　稀なると
やつこ五心　於ころも
酒をのみ　ん　ほうくしき
あ〜なさの　ほうそうやな
凍死也の　嘆や　ほうさ

漫成五倫

君臣有義

家の子孫を　ゝ　ふ年忘

父子有親

能汁や　ほうさ　ほうそ　ほうこ

夫婦有別

涙しぐめ　ぬ　出ぬ　ゝ　ぬ

長幼有序

待ぬ　ぬ　狼の子　ゝ　ゝ

朋友有信

ぬ　ゝ　我　ぬ　ゝ　ぬ

大小の　元孫十丁七年

大庭を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元日を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒債尋常往処有人生七十古来稀

[illegible]

[illegible]年を貪欲酒債に

[illegible]

年中の放下見へ[illegible]

豆をうり[illegible]

乾元の[illegible]

長き[illegible]近し得方丸

三丹[illegible]煙焔自無撰

今こそ[illegible]周十帝や思ふ事

[illegible]

年[illegible]や[illegible]業[illegible]

さら紙翁まてのよし也曽田乃
由り伊賀姥まろへおくひの行け
かりぬるを叫ひてう川の山よりし
人ゝよやさます

宜捨よ笈れ小文や年の暮
行すそし幻住庵よハいつ行る句
を于孫さま乃んそ追ゑてれさそて
世の中をうけあつ中

妖あり瓶貧しき昨もろあ

大晦日猶いのちあり年忘
清玄関より破戸弓をかえまて

非ふとあし小大数とし宝

ゆきしも戸板めくたし鐘の跡

ゆく年に噬咕む かくみとき
聖代

露ありて日ゝそ毎年に大晦日

雑之部

十及の圖 画ハ略之
従昔異邦の仏澤禅師十
牛を寄して人間迷路のありを
表わしたまひし其書を稗云は
我て牛ハ声音妓有こ又及
ともとてあるれハ説あれしたる

爰わ十及の家を画策し給て
笑を万世に残すこの晋其角

尋　牛

やうやく秋ハよりうすき月哉

呼　牛

よりあつまるあはれ角てもさらぬ家

隠　牛

蓑虫ハ秋なを鳥の鳴り

貧　牛

仁条利やとるらん(も)辛男

廻　牛

小便し負ふあまる五月雨の郷

番　牛

行くすゑ暁傘をかつぎより

無　牛

きりぎりす枕も床も忙屐哉

丰　牛

何となく夕夜とゆるとを重ね

送　牛

さらんよりの千を飛ぶ花の雲

光半

[illegible]

於冠里公吾影五色梅

[illegible]梅や其の淵へのうけちく

[illegible]のまさ手ぬ手や梅の蕊

村[illegible]れとさ[illegible]や月根の松

[illegible]丸峰丸よう宮をはく堂の

[illegible]いふ[illegible]

[illegible]綿よりて御[illegible]の[illegible]

一チ[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]字のうち[illegible]

[illegible]て一町世[illegible]

[illegible]む[illegible]く[illegible]歌の[illegible]

[illegible]

盆舎

[illegible]三日いやらあ[illegible]

十日[illegible]

[illegible]

馬糞紙よこさるるとふるみを

あらはひしきくるさ丸神

我兄と桃梅柳うすき酒

作のむくさ丸か成乃あけの

追加

あるずるや心と丸よ浮雲主

[illegible]

天智天皇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山城の額の海丸の海波

画賛

[illegible]

[illegible]

妙法蓮華經

多くはなりやはの蓮花蓮華經

雪の荷亭の花ふかまりて

舟を引る孫ありて糸桜

自画讃

華鳥やもゝ千年変化法合

開よりて大工百りむ後の梅

九條飯沛下向

侍奏うまこの八月ものゝ八日やもゝ門

法橋塙小馬休めりて大根引

法師屋敷を出うまと大根引

駿州久能の別当さんさま

かして法色ゝわりを

ゆくしさもや沛年男の蔭寄

旨延享四丁卯年秋八月全編校合

成

百高旨原

續五元集　其角附合　全部三冊　出来

大坂書坊
北久太良町心齋橋
丹波屋傳兵衛梓

五元集 其角附合 全部三冊 出来

大坂書坊
北久太良町心齋橋
丹波屋傳兵衛梓

五元集